

工場出荷時に装着されているロシア製燃料コックはコンベンショナルなロシア製 / チェコ製のキャブレターの装着を前提に設定されています。当初、アメリカ・カリフォルニアの排気ガス規制適合のため採用されたケイヒン製キャブレターは先進国を中心にすすめられた排気ガス規制強化の波に押されてヨーロッパ向け、日本向け車両にも採用されるようになりました。この高精度キャブレターは自動コック装備を前提として開発されているもので燃料を外部に漏出されない構造のためオーバーフローパイプの設定がありません。手動式燃料コックの開閉を忘れて駐車してオーバーフローが発生すると燃料がエンジン燃焼室に侵入してエンジン破損など重大な故障につながる場合があります。またチェコ製のキャブレターや従来型のキャブレターの場合はオーバーフローでキャブレター外部に燃料が漏れだし火災の原因にもなりかねません。燃料コックの開閉は忘れず確実に行ってください。自動コックに交換すればコック開閉の煩わしさから開放されます。



特徴： 目の細かい大型スクリーンメッシュが装着されているためタンク内の錆、塗装片、燃料混入異物、燃料沈殿生成物の混入を防ぎます。またコック本体下部にはストレーナーが装着されているので結露で発生する水分などを保持する機能を有しています。構造上、取り付け角度に制約がないので無理のない位置で固定できます。

自動コック： バルブの操作はエンジンで発生する負圧を用いて作動させるものでエンジン稼働中のみバルブを開放させるものでエンジン停止で負圧発生がなくなると自動でバルブが閉鎖する構造になっています。レバーの操作はON（開放）のほか予備（RES / リザーブ）用と燃料タンク脱着や長期間保管時に使用するOFFがあります。国産オートバイでは20数年前より採用されています。

自動コックは負圧作動のタイプのほか、電力によって開閉する電磁コックなどがあります。

（U R A L オートコック）